

政策整理番号	34	施策番号	1	評価シート(B) (施策評価: 施策を構成する事業の評価)			
対象年度	H18	作成部課室	土木部 道路課	関係部課室			
政策名	国内の交流を進めるための交通基盤の整備					政策番号	4 - 10 - 2
施策番号	1	施策名	高速道路の整備				
施策概要	県内各地と仙台空港や仙台国際貿易港等の拠点施設、県内外の中心都市、首都圏とを結び、人やモノが速く、安全に、行き来できるようにするため、高速道路を整備します。						
政策評価指標 / 達成度	高速道路IC40分間交通圏カバー率	B					

達成度: A(目標値を達成している), B(目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す方向に推移している)
 C(目標値を達成しておらず、設定時の値からみて指標が目指す方向と逆方法に推移している), ... (現状値が把握できない等のため判定不能)

施策を構成する事業の分析

活動(事業) / 活動(事業)によりもたらされた結果							活動(事業)によりもたらされた成果					
事業番号	事業名 [担当課]	事業の対象 (誰・何を対象として)	事業の手段 (内容) (何をしたのか)	業績指標名 (単位) <small>(事業の活動量、「事業の手段」に対応)</small>	H16	H17	H18	事業の目的 (意図) (対象をどういう状態にしたのか)	成果指標名 (単位) (事業の成果、「事業の目的」に対応)	H16	H17	H18
					業績指標の値					成果指標の値		
					事業費 (決算(見込)額, 千円)					成果指標の値		
					単位当たり事業費(千円)					成果指標の値		
1	高規格幹線道路整備事業 [道路課]	利用者	高規格幹線道路を整備した。 ・三陸縦貫自動車道 ・仙台北部道路	供用延長 (km)	6.6 5,273,100 798954.5	0 4,831,021	0 5,072,617	県内一円を最寄り の高速道路IC まで40分間で 結ぶ。	高速道路IC 40分間交 通圏カバ ー率 (%)	94.1	94.2	94.2
2	地域高規格道路整備事業 [道路課]	利用者	地域高規格道路を整備した。 ・みやぎ東北高速幹線道路	供用延長 (km)	0 1,900,000	0 1,490,000	0 1,013,000	県内一円を最寄り の高速道路IC まで40分間で 結ぶ。	高速道路IC 40分間交 通圏カバ ー率 (%)	94.1	94.2	94.2
3	[]											
4	[]											
5	[]											
事業費計(千円)					7,173,100	6,321,021	6,085,617					

B - 1, 2, 3 施策を構成する事業群の評価

B - 1 施策実現に向けた県の関与の適切性と事業群設定の妥当性	B - 2 事業群の有効性	B - 3 事業群の効率性
適切	概ね有効	概ね効率的
<p>【評価の根拠】 施策を構成する事業の分析「B-1 事業への県の関与の適切性と事業設定の妥当性」を総括して記載</p> <p>・国・県・市町村・民間団体との役割分担は適切で、事業間に重複はなく、社会情勢から判断して、「適切」と判断した。</p>	<p>【評価の根拠】 施策を構成する事業の分析「B-2 事業の有効性」を総括して記載</p> <p>・投資額が巨額で、事業実施に年数を費やすことから、評価指標には大きな向上は見られないが、着実に進行しているため「概ね有効」と判断した。</p>	<p>【評価の根拠】 施策を構成する事業の分析「B-3 事業の効率性」を総括して記載</p> <p>・事業の性格上、平成18年度は新たな供用開始区間がなかったこともあり、「概ね効率的」と判断した。</p>

B 施策評価(総括)

概ね適切
<p>【評価の根拠】 B - 1, 2, 3 を総括し施策を総合的に評価</p> <p>・県の関与は適正であるが、事業の性格上、事業群の有効性・効率性は単年度での判断は下しにくい面もあるが、着実に事業進捗しているため、「概ね適切」と判断した。</p>
<p>【施策の次年度(平成20年度)の方向性】 この施策における今後の課題等を記載</p> <p>・国内の広域的交流を進めるためには、高速道路ネットワークの形成を図ることは急務であるが、絶えずコスト縮減と効率化を図る必要がある。</p>

施策を構成する事業の分析

活動(事業)の分析		
B-1 施策実現に向けた県の関与の適切性と事業設定の妥当性	B-2 事業の有効性	B-3 事業の効率性
<p>【国、市町村、民間団体との役割分担は適切か】 【施策目的及び社会経済情勢を踏まえた事業か】 【事業間で重複や矛盾がないか】</p>	<p>【成果指標の推移から見て、事業の成果があったか】 【施策目的の実現に貢献したか】</p>	<p>【事業は効率的に執行されたか(単当たり事業費の推移その他から)】</p>
<p>・国は国土開発幹線自動車道建設法等に則り、高規格幹線道路等の整備主体であり、民間団体の東日本高速道路(株)が、高規格幹線道路を整備している。 ・高規格幹線道路は、社会基盤としての公共性が高いため、国及び高速道路会社が整備するべきものである。</p>	<p>・高規格幹線道路の整備は、相当の期間と莫大な費用を要するため単年度では成果が得られない年度もある。</p>	<p>・事業費は横ばい傾向にあるが、事業の性格上単年度比較では、事業費と事業指標の割合との相関は認められないが止むを得ないと判断する。</p>
<p>・県は、高規格幹線道路を補完し、地域集積圏相互の交流を図る地域高規格道路を整備している。仙台市については、市内の地域高規格道路について検討している。 ・地域高規格道路は、高規格幹線道路を補完し、地域間交流を促進し地域経済の発展を図るのもであり、社会経済情勢に適した事業となっている。</p>	<p>・地域高規格道路の整備は、相当の期間と莫大な費用を要するため単年度では成果が得られない年度もある。</p>	<p>・事業費は減少傾向にあるが、事業の性格上単年度比較では、事業費と事業指標の割合との相関は認められないが止むを得ないと判断する。</p>

施策を構成する事業の方向性

活動(事業)の次年度(平成20年度)の方向性とその説明	
方向性	方向性に関する説明
「宮城の将来ビジョン」における位置づけ	
取組番号	取組名
拡充	・国内の交流を進めるため、国土の骨格を形成し、ほくとう新国土軸の基幹となる三陸縦貫自動車道及び仙台北部道路等の整備を図る。
取組12	宮城の飛躍を支える産業基盤の整備
拡充	・高規格幹線道路整備と一体的に高速道路ネットワークを形成する上で重要な事業であり、整備を図る。
取組12	宮城の飛躍を支える産業基盤の整備

政策評価指標分析カード(整理番号1)

政策整理番号

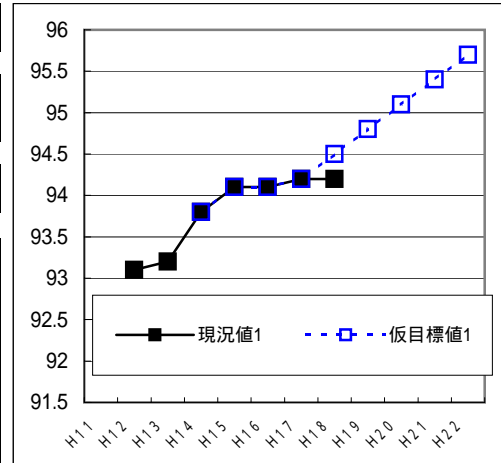
34

施策番号

1

対象年度	H18	作成部課室	土木部 道路課	関係部課室	
政策名	国内の交流を進めるための交通基盤の整備			政策番号	4 - 10 - 2
施策番号	1	施策名	高速道路の整備		

政策評価指標		単位						
高速道路IC40分間交通圏カバー率		%						
目標値	H17	94.2	H22	95.7				
評価年	初期値	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
測定年	H14	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
現況値	93.8	93.1	93.2	93.8	94.1	94.1	94.2	94.2
仮目標値				93.8	94.1	94.1	94.2	94.5
達成度				...	A	A	A	B



達成度:A(目標値を達成している), B(目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す方向に推移している)
 C(目標値を達成しておらず、設定時の値からみて指標が目指す方向と逆方法に推移している), ... (現状値が把握できない等のため判定不能)

政策評価指標の概要

高速道路ICまでの到達時間が40分間以内となる地域内人口の県総人口に対する割合

政策評価指標の選定理由

・国内交流を進めるための交通基盤整備の指標としては、国内各地と連結する高速道路ICまでの行きやすさが適切と考えられる。一方、県においては道路計画において40分間交通圏構想があるため、これらを総合した高速道路IC40分間交通圏カバー率を作成、選定した。

達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し

・平成18年度は新たなICの供用が無かったことから、現況値に伸びが見られなかったため、未達成である。
 ・今年度以降に新たなICが供用され、これにアクセスする国道・県道・市町村道が整備されないと、指標の向上は見込めない。

政策評価指標の妥当性【施策の有効性を評価する上で適切な指標か】

・国内の交流機能を図る指標としては、全県内からの国内交流の一翼を担う高速道路ICまでのアクセスが適切と考えられる。

